

クサヨシ

Phalaris arundinacea

イネ科

名前の由来

ヨシに比べると小型で軟らかい草質であることから名付けられた。ヨシはアシともよばれ、「稗(かん)：ワラの意味」から変化したものといわれる。アシは「悪し(あし)」にも通じるのでこれを避けて、「善し」と同音の「ヨシ」を用いるようになったという。漢字名：草葦



クサヨシ

形態的特徴

高さ0.7~1.8mで直立し、よく群生する。葉は細長く幅0.8~1.5cmで先はとがり、途中を下に垂れる。葉が茎と接する部分で、葉舌という透明な膜が立ち上がり、茎を取り囲む。

花は茎上部から多数出る柄上について穂のようになって立ち上がり（円錐花序は狭く、直立する）、下に垂れることはない。花は淡緑色でやくが淡紅色が目立つ。

類似種と見分け方

ヨシ、ツルヨシ。

ヨシの花序は長く、全体でススキのような赤褐色の穂になって垂れ下がる。また葉舌は小さく目立たない。ツルヨシ

は地表を長く這い、節々から根を伸ばして地表に固定させ、その節上に毛を密生させる。



クサヨシ。穂は立ち上がる



クサヨシの花。黄褐色のやくと、ガラス細工のような透明な雌しべが見える



ヨシ。穂が垂れ下がる



ツルヨシ。ツル(ほふく枝)が地上を這う

生活サイクル

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 開花期 | | | ■ | | | | | | | | | |
| 結実期 | | | | ■ | | | | | | | | |

生育環境・分布

日当たりがよく、少し湿った草地、湿原などに群生する。

分布：国外分布は、熱帯以外の北半球に広く分布する。タイプ産地はヨーロッパ。

国内分布は、北海道から九州まで分布する。

北海道内分布は、全道的に分布する。

十勝地方生育状況は、日当たりがよく、少し湿った草地や湿原、河畔林などでよく見られる。群生する。



クサヨシ。巨大な群落もよく見られる

生活史

開花時期：6～7月

開花までの年数：不明

寿命：多年草。

他生物との関わり

水辺にクサヨシ等の植物群落が生育する場所では、水面に影ができたり、植物体が水中に倒れこんだり流されたりすることで、水中環境が複雑になり、魚や水生昆虫等、様々な生き物の生育場所になっている。

クサヨシは、ウラジヤノメ、カラフトタカネキマダラセセリ、コキマダラセセリ、ジャノメチョウ、ヒメウラナミジヤノメの幼虫時の食草となる



左はカラフトタカネキマダラセセリ、右はヒメウラナミジヤノメ。幼虫時クサヨシを食草とする (左写真撮影-平林照雄)

興味深い話

■クサヨシの花穂は、最初は円柱形で、花のつく柄が茎に沿って上方にのびているが、開花時期には柄がやや水平方向に倒れて散開し、果実が稔ると再び円柱状に戻る。

■河川敷など増水時に真っ先になぎ倒されてしまうような氾濫原に生育するが、倒れてもすぐに茎の節から新しい芽を再生し、結果的に群落を拡大させてしまう。

■道路法面などの表面侵食防止のために植えられている。



クサヨシ



クサヨシの穂 (花)

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(葦原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「増補 日本イネ科植物図譜」長田武正 平凡社 1993

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「溪流魚の生育場所と河畔の植栽」光珠内季報108巻 10～14ページ 長坂有 1997

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994